

令和5年度 教育研究の方向性



京都市総合教育センター 研究課 研究員
中村 寿樹

Society5.0時代

予測困難な時代

どのようなことができるのか？

まずこれから
やってみよう!!

何が問題なのか？

これで
どうだったのか？



問いを自ら見だし、正解のない課題の解決に向かっていく

次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力

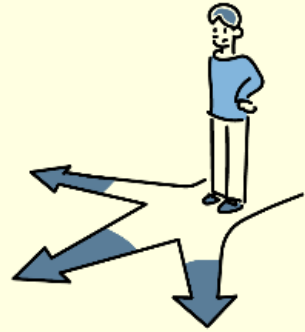
- 教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力
- 対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力
- 困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力
- 文章の意味を正確に理解する読解力

これからの教職員の目指すべき姿として

- 学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続ける
- 多様な人材の確保や教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団を実現し、個々の教職員がチームの一員として組織的・協働的に取り組む力を発揮しつつ、校長のリーダーシップの下、共通の学校教育目標に向かって学校を運営していく

昨年度の研究テーマ

- 学習を自己調整する力



- 個別最適な学びと協働的な学び



- 読み解く力



- 日常的なOJT



個別最適な学びと協働的な学び

構想

生徒が選択する

実践において生徒は学習道具、学習形態、学習場所をそれぞれ選び、学びを進めます。

学習道具

- 教科書
- ノート
- GIGA端末
など

学習形態

- 一人学び
- 二人学び
- グループ学び
など

学習場所

- 自分の座席
- 友だちの座席
- 指導者の近く
など

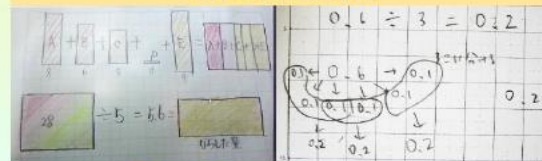
教室内(例)



【ポイント】 最初は指導者が選択肢を示しますが、徐々に指示を減らし、生徒が選択できる時間を設定します

実践

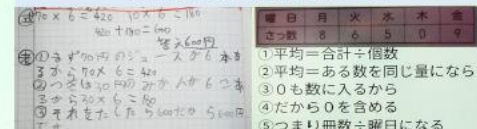
考えを図式化



なぜその答えになったのか、
考えの根拠を絵や図に表す。

要点を簡潔にかく

どのように考えたのか、何を求めたのか、
要点をしぼり、順序立てて言葉で表す。



考えを伝え合う



どのように伝えればわかりやすくなるか、
相手意識をもって、絵や図と関連付けながら、
自分の考えを説明する。

京都発!確かな教育実践のために 47

生徒が主体的に
学びを進め、考えを広げ深める
数学の授業

「個別最適な学び」と「協働的な学び」
の授業の在り方を求めて

—数学科における課題を選択し自立的に学び合う授業の提案—

京都市総合教育センター 研究課・カリキュラム開発支援センター

中学校 数学科

京都発!確かな教育実践のために 48

子ども一人一人の
可能性を引き出す

個別最適な学びと協働的な学び

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業の在り方を求めて
—算数科における課題を選択し、自立的に学び合う授業の提案—

京都市総合教育センター 研究課・カリキュラム開発支援センター

小学校 算数科

京都発!確かな教育実践のために 47

「生徒が主体的に学びを進め、考えを広げ深める数学の授業」

京都発!確かな教育実践のために 48

「子供一人一人の可能性を引き出す

個別最適な学びと協働的な学び」
京都市総合教育センターHPにも掲載



読み解く力

教科書の文章を
読み解けていない



中教審答申
平成28年12月21日

情報を取り出す

活用して思考する

筋道立てて説明する

昨年度は理科で



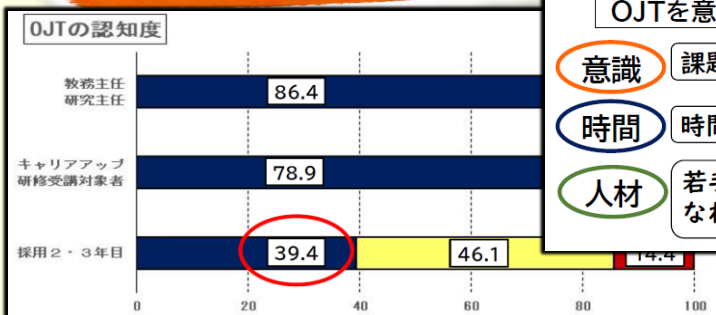


日常的なOJT

調査

分析

考察



OJTを意識した取組を進めるにあたっての課題

- 意識**
 - 課題を共有できない
 - 意識の個人差
- 時間**
 - 時間の確保が難しい
 - 事案に追われ、計画的に進めにくい
- 人材**
 - 若手が多いため、手本となれる教職員が少ない
 - 年齢層に偏りがあり、リーダーを育成する体制が取れない

OJTを有効に機能させる三つの要素

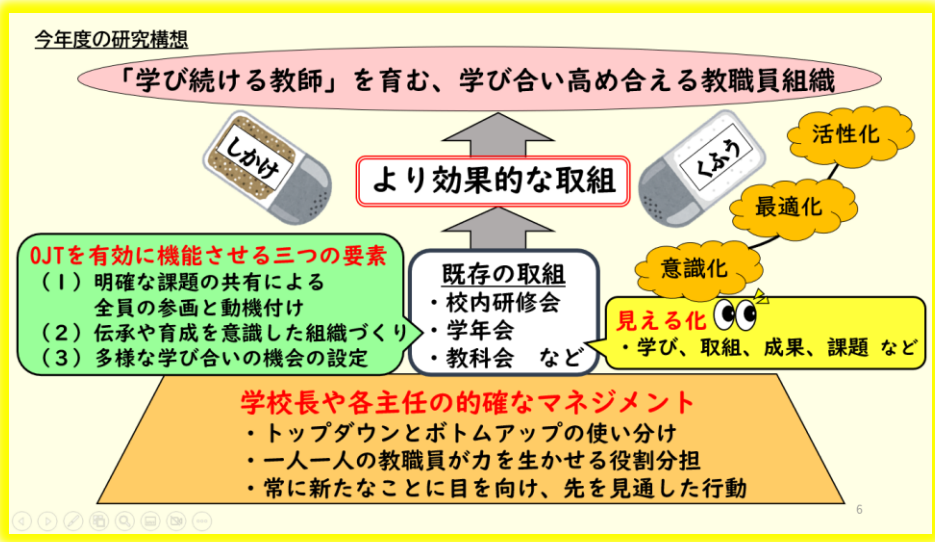
1. 明確な課題の共有による全員の参画と動機付け
2. 伝承や育成を意識した組織づくり
3. 多様な学び合いの機会の設定

☆人間関係、風通しのよい職場環境

校長先生…担任
職員室 …クラス
学級経営と似ている



今年度の研究構想



今年度の研究実践へ

昨年度の研究テーマ

- 学習を自己調整する力



- 個別最適な学びと協働的な学び



- 読み解く力

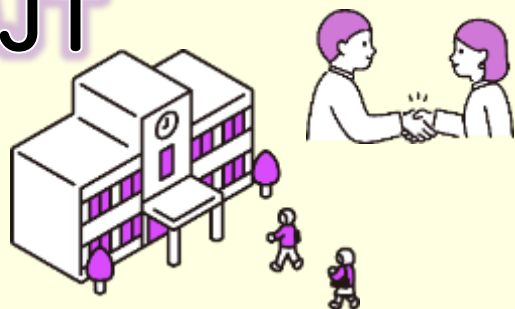


- 日常的なOJT



今年度の研究テーマ

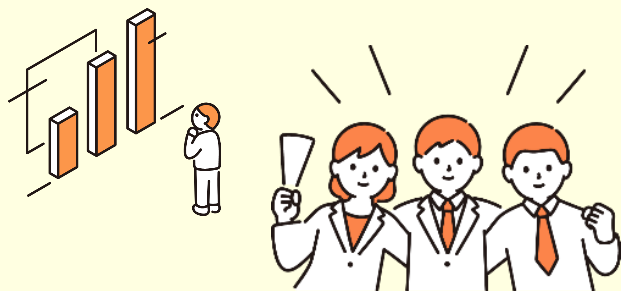
・日常的なOJT



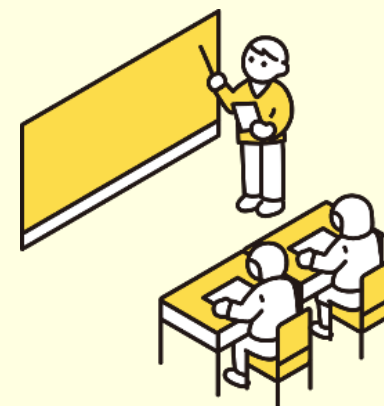
・読み解く力



・非認知能力



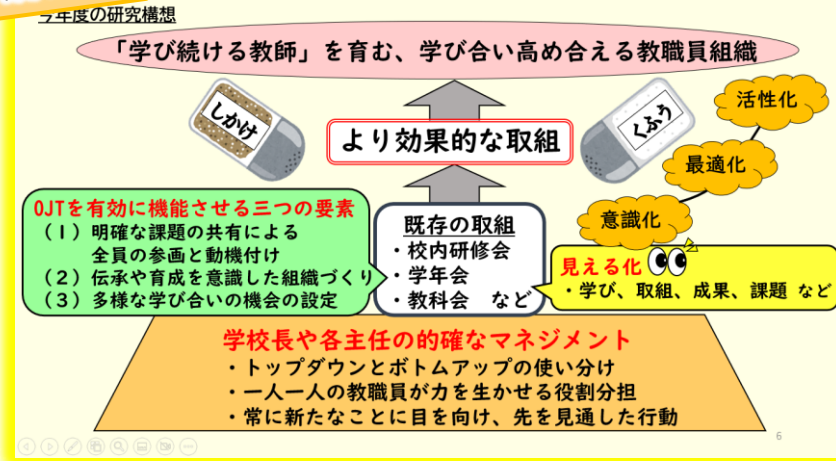
・発達障害支援





日常的なOJT

構想



実践

(1) 明確な課題の共有による全員の参画と動機付け

テーマを設定した教科会

*全教職員で同じ方向を向いて取り組むために

(2) 伝承や育成を意識した組織づくり

若手教職員が企画運営する学び合いの場

*若手教職員の育成と教職員全体の学び合いの活性化を図るために

(3) 多様な学び合いの機会の設定

ワークショップを用いた学び合い

*全教職員で授業づくりを行うために

【3-Ⅱ】

研究発表Ⅱ

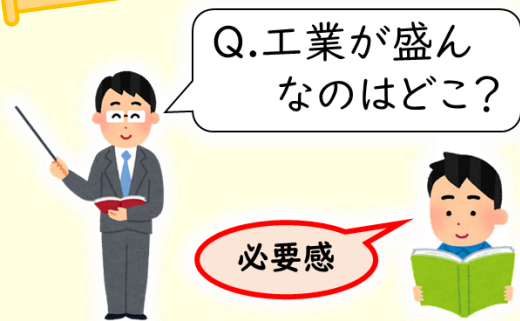
15:55~16:45

(第3研修室)

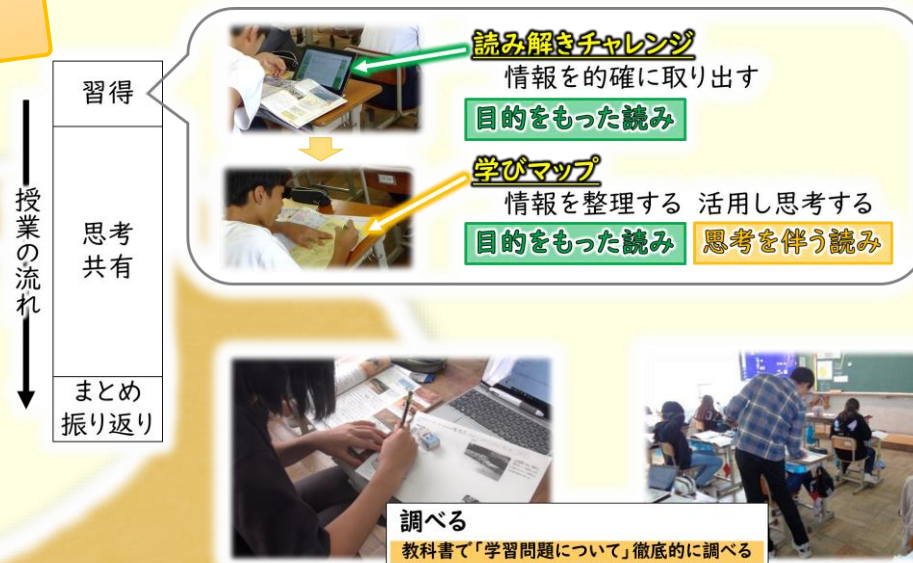


読み解く力

構想



実践



調べる
教科書で「学習問題について」徹底的に調べる

- ①文章(本文)
- ②写真資料(解説)
- ③グラフ
- ④地図

読み解きチャレンジを思い出して!!

☆分かったこと・分かること(事実)⇒考えたこと
☆他の資料との関連

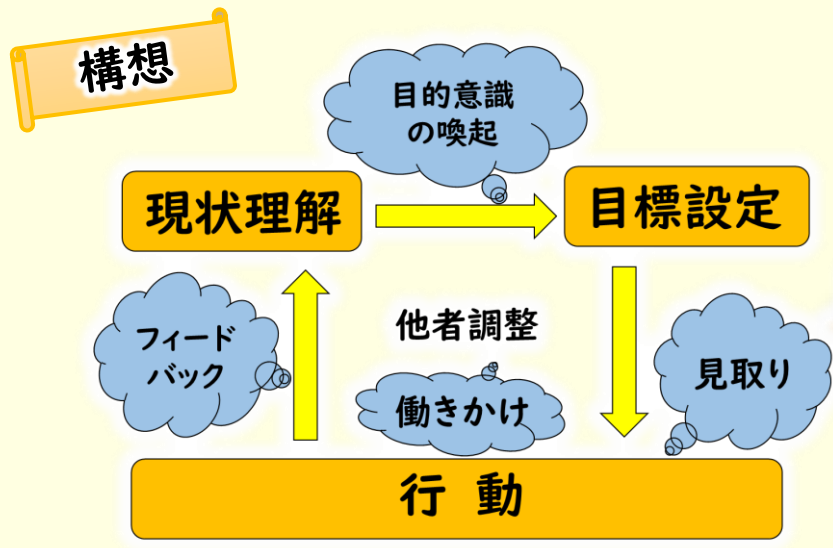
小学校

【I-I】
研究発表 I
14:50~15:40
(第2研修室)

中学校

【I-II】
研究発表 II
15:55~16:45
(第2研修室)

非認知能力



経験の価値を高める

実践

長期ログの取組

中期ログの取組

短期ログの取組

1. 能力チェックを行い、自分自身の力を分析してみよう

5つの項目はどんな力？

早く寝る！12時までに

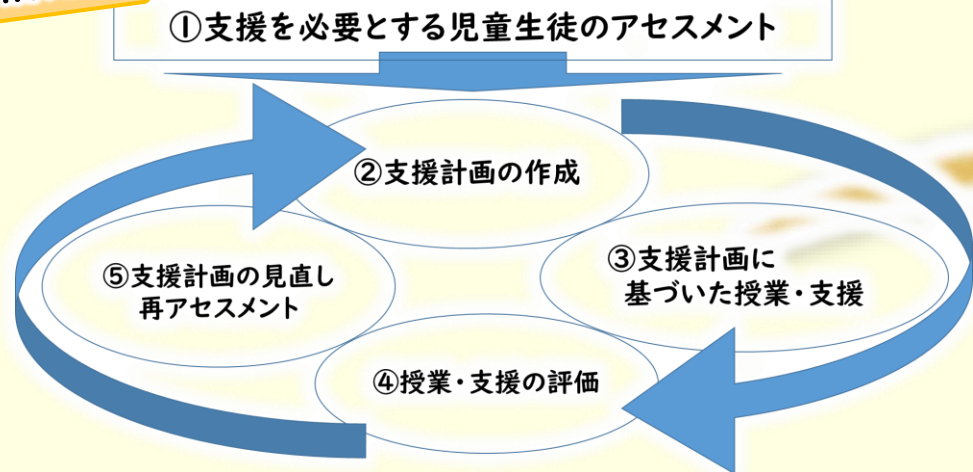
朝ご飯をしっかりと食べる

【2-1】
研究発表 I
14:50~15:40
(第1研修室)



発達障害支援

構想



実践

1年生焦点化児童 個別の指導計画より抜粋

	1学期	2学期	3学期
短期目標	①友だちの名前を覚える。 ②自分がすべきことを理解し、集中して学習に取り組む。	①友だちの名前を覚える。 ②自分がすべきことを理解し、集中して学習に取り組む。	①友だちに思いを伝え、一緒に遊ぶ。 ②自分がすべきことを理解し、集中して学習に取り組む。
支援具体的な	①週に1回「私は誰でしょうクイズ」を通して、顔と名前を憶えていくことができるようにする。また、時々個別に名前を聞いてみて、思い出させることができるようにする。 ②学習の中で流れを順序で示し、今何をしているのかを確認することができるようにする。やり方が理解できるよう実際にやっているところを見せるようにする。		

「全体指導の工夫」+「個別支援」



授業への参加 「与える情報の整理」(中学校 英語科)

生徒の活動	指導者の活動	◇手だて ○個別支援
Conversation I (テーマI)	クラス内アンケートを用いて会話することを伝える。	◇ロイロノートで画面共有 ○教科書本文を参考に発表できるように促す。



授業内容
※TV画面と同じ



全体→◎
個別→◎

【2-II】
研究発表II
15:55~16:45
(第1研修室)

令和5年度 教育研究の方向性



京都市総合教育センター 研究課 研究員
中村 寿樹